

Member's Forum

会員投稿の頁



U-35委員会企画 talk baton 23 活動報告

talk baton とは…

若手プラットフォームづくりの活動の一環として、建築を取り巻く他分野のゲストがトークのバトンを繋げていくコミュニケーショントークイベントです。

建築をフィールドとする私たちと毎回のゲストとの対話を通じて、建築が本来持っている多様性やバイタリティを見つめ直し、これからの建築に求められる領域を探っていきます。

U-35委員会ホームページ

活動内容やメンバーの雑感などざっくりぱらんに情報をアップしています。
ぜひ一度お立ち寄りください。
<https://www.aaj.or.jp/u35>



talk baton 23
「建築とDIY」

ゲスト
Locaco Project
代表
村上貴信 氏

まちの小さな設計事務所を営みながら、DIYを活用したイベントやワークショップを企画。



ゲスト
株式会社リノベリング
取締役
水上幸子 氏

全国の100以上の都市・地域でリノベーションまちづくりをサポート。



U-35委員会
株式会社竹中工務店
設計部
市川雅也 氏

茨木市文化・子育て複合施設「おにクル」の設計を担当。U-35で市役所前線社会実験を企画。



ファシリテーター：平岡翔太（以下FT）

今回は8th action企画『茨木市役所前線社会実験IBARAKI STREET ACTION』のプログラムの一環としてtalk batonを行った。テーマは“DIY”、自らが行う身近なもののづくりからまちづくりの本質に触れた。スピーカーは、大阪府茨木市出身のゲスト2名 村上氏と水上氏に加えU-35メンバーの市川氏。異なる立場でまちにアプローチする3名が各々の取組みについて語った。会場は、茨木市役所エントランスの大階段で、通行止めされた市役所前線を多くの人々が行き交う中実施された。トークセッションでは茨木市民をはじめ、茨木市職員や出展者など、多くの方々にご参加頂いた。



会場の様子

Locaco Project 村上氏の取組み

『DIYリノベーションまちづくり』

■Locaco Projectとは

Locaco Projectは設立して2年半ぐらいになりますが、ローカルコミュニティの略でそれをもじってLocaco Projectとしています。DIYが得意なので、“DIYで地域をつなぐ”をコンセプトに、DIYによるリノベーションまちづくりを市民、行政、商店街などと連携・協働しながら活動をしています。

■DIYリノベーションまちづくり

リノベーションまちづくりは、空き家、空き店舗等の遊休不動産をリノベーションの手法を用いて再生し、その地域の価値向上、まち全体の魅力向上、地域活性化を図るまちづくりのことです。これとDIY（自分でやるということ）をくっつけて我々DIYリノベーションまちづくりと言っています。ポイントは自分たちで自分たちのまちを盛り上げ茨木のまちの価値を高めていくことです。誰かから言われて参加するのではなく、まず自分でやってみることが重要です。

■D.GIRLSプロジェクト

DIY女子によるまちづくりプロジェクトです。DIYでまちを盛り上げながら、建築業界の女性の新しい働き方を提案できればいいなと思っています。活動の一つである、おうちDIYは各家庭のデッドスペースを上手く活用する方法を、今あるものをつかって、主婦目線で提案しています。DIY女子がまちの困りごとを解決す



傷んでしまったウッドデッキを市民参加型ワークショップで塗り替え（IBALAB@広場）



D.GIRLS-まちなかDIY。駐輪場フェンスや、IBALAB@広場のプランターなど、街中にあるちょっとしたものをDIYで製作

る。昔よく農村社会で“結”という相互扶助性がありましたが、現在の新しい“結”のかたちをDIY女子で実現していきたいと思っています。

■家守 遊休不動産のリノベーション活用

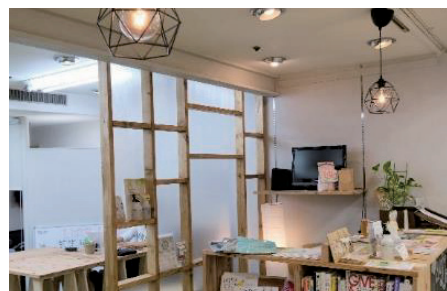
遊休不動産のリノベーション活用をやっています。空き家、空き店舗、古民家などのストック活用を建築という切り口だけではなく司法書士や宅建、銀行、自治会と一緒に、問題をワンストップで解決できる相談窓口というものをつくっております。

■シェア屋台サービス

地域とのつながりを目的としてシェア屋台サービスをやっています。“こどいち”は子供主役のマルシェで“こどもヤタイ”をシェアしています。子供が自分でつくったものを自分で売る、偽物のお金ではなく、現金50～100円で販売しています。

■まちを良くしたいという想いが重要

小さいところからまちを動かして行くことが非常に大切だと思っています。何か活動したいという人を少しずつ巻き込んでいき、プレイヤーとして独り立ちしてもらえれば、茨木が盛り上がるのではないかと考えています。まちづくりは行政に頼ってばかりでは効果がないと考えていて、かといって行政と切り離してまちづくりをするわけではなく、官民連携のまちづくりを民間主導でやっていきたいと思っています。DIYにつながるんですけども、自分たちで動いて、何かアクションを起こしてまちを変えていくことが重要だと思っています。



現代版家守-空き店舗のDIYリノベーション。作って終わりではなく、用途に合わせて作り変えていく



シェアヤタイ-こどもヤタイ。こどいちで使用する、こどもサイズのミニヤタイ

株式会社リノベリング 水上氏の取組み

『リノベーションまちづくり』

■人口増加時代の手法はもはや通用しない

人口グラフをみると2008年に急角度で人口が減少に転じています。今のまちづくりという概念は、戦後、住宅や商業施設が不足したときに頑張って建てた時代をもとに生まれたのではないかと考えています。しかし人口が減り始めて、建てても人が来ない状況、更に通販などが充実し何処にいても何でも手に入る状況です。180°前提条件が違うのに同じ手法が同じ効果をもたらしませんよね、というのが我々のスタート地点です。

■リノベーションまちづくりとは

リノベーションまちづくりとは、再開発のように時間やお金をかけて大きな効果を狙うのではなく、目の前にあるもの（潜在資源）をいかに再解釈し、そこに価値を見出して、低コストで時間をかけずにまちを変えていく手法です。10年前にこれを打ち立て実践を続けています。建築的なリノベーションではなく、人の見方やとらえ方をリノベーションすることが重要だと思っています。

■民間主導の公民連携を実現するための仕組み

潜在資源を活かすとなるとプロジェクトの規模が小さくなるため、再開発等と比べて行政が関与し難くなります。例えば小さいコーヒーショップができたとしてもその取組みの公平性と言われたら説明し難い。行政の方々は360°の人たちに向けて公平性を担保しなくて

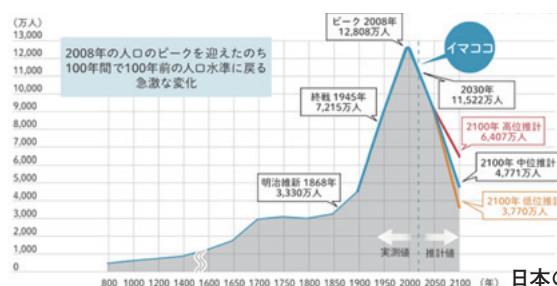
はなりません。すぐに実践できる民間が主導するのが、リノベーションまちづくりでは適切なのではないかとというのが根本にあります。

■リノベリング取組み事例「テントサウナ」

私たちのプログラムの中では、色々なコンテンツが生まれました。行政がまちづくり計画として上げている課題に対してコンテンツを語ると行政としても応援しやすくなります。事例ですが、地元の30～40代の方が、使われていなかった公園の中にテントサウナを持ち込んでサウナするということが起きました。このまちでは少子高齢化が進んでいて、人口流出が課題の一つでした。それは子供の頃にそのまちを楽しむ体験が少なかったことも原因の一つだと思います。素敵な大人たちとたくさん触れ合い、まちでの楽しい思い出が増えたと、戻ってきたくる人が増えるんじゃないかと、だからこの取組みは意味があるんだと公共性を持たせました。

■公民連携の心構え

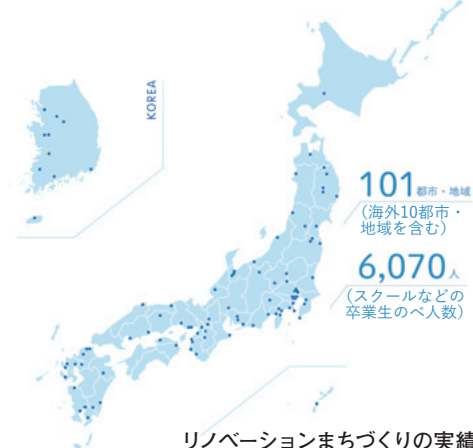
市民として重要なことは、世の中の違和感に敏感であることです。当たり前のように良いと思っていることが本当に良いのかと常に問い続けなくてはなりません。行政として重要なことは“株式会社茨木市”として民間の経営視点を持って公共サービスの質をあげることです。その時、民間の活動を行政言語で解釈して意味づけることも大切です。



日本の人口の長期的推移 出展：国土交通省HP



リノベーションまちづくりにおける3つのポイント



リノベーションまちづくりの実績

Member's Forum

会員投稿の頁

株式会社竹中工務店 市川氏の取組み

『IBARAKI STREET ACTION』

※詳細は建築と社会 7月号に掲載予定

■アクションを仕掛ける

本日のテーマDIYの意味は、自分自身でやってみるということです。IBARAKI STREET ACTIONというのも同じことだと私は思っています。自分事のようにまちにアクションを仕掛ける、これもまさにDIYなのではないでしょうか。

■連鎖を生み出す

アクションは連鎖していくものだと思います。また連鎖を生むためには、良いね！という共感が生まれるよう、時に戦略的かつ大胆にチャレンジすることが大切だと思います。今回の社会実験の目的は、おにクルや市役所などの公共施設と公園が一体となるようなエリアの価値を最大化することです。その実現のために、おにクルと市役所を分断する道を1日通行止めにし、車中心から人中心の使い方にモードチェンジする体験をしてもらいました。社会実験を契機にまちに対しても新しい気づきが生まれ、次のアクションにつながることを期待しています。

■0から1を実現する

社会実験のために道を止めることは、茨木市初の取組みで、まさに0から1を実現することでした。正直、一筋縄ではいきませんでした。普段通り抜けている乗用車やバスの通行をゼロにし迂回させることに對して多くの課題があり、多くの方々の協力と協議を重ねています。0から1を実現することは大変だなと感じるとともに、チームだからこそできるアクションの形だと思っています。

■誰がアクションを起こす？

本日の社会実験の次にアクションを起こす人は誰でもよくて、市民の方でも学生の方でもどんどん手を挙げてもらいたいです。アクションの連鎖が起こるといいなと思っています。



社会実験 IBARAKI STREET ACTIONの様子

トークセッション『茨木市のまちづくりについて』

■まちづくりの動機

FT：それぞれ異なる立場でまちづくりに関わっていますが、どんなモチベーションでまちと向き合っていますか。

市川：おにクルの設計に携わっていましたが、気付いたらおにクルを飛び出して、市役所前線の計画に関わっていました。私は茨木市の住民の方で変だなと（笑）思うところがあって、今日も通りすがりでよくこの社会実験に馴染めるなど、そういうところが変だなと思うし、魅力的だと思うんですね。同時に役所の人も変だなと思っていて、良いと思うものに対しては、すぐに「ちょっとやってみようか!!」みたいな前向きにかつ戦略的に取り組む姿勢が最高だと思うんですね。そういう方々のチャレンジは楽しいし、頑張りがいがあります。

村上：私自身、あまりまちづくりという言葉が好きではなく、Locaco Projectをつくったきっかけは、なんとなく今自分たちが住んでいるまちを良くしたいという思いからです。まちづくりしたいからLocaco Projectをつくって、茨木を盛り上げていこうよ、ではなく自分たちが楽しいことやって、それでまちが盛り上がってくれば良いかなというところがスタートです。

■茨木市のまちづくりビジョン

茨木市 企画財政部市民会館跡地活用推進課

向田課長：茨木市のまちづくりに対するマインドはここ数年で、特に現市長になって大きく変わったと思います。市民会館跡地活用プロジェクトを始動しコンセプトを出したとき、市長からダメ出しを食いました。行政的なまとめ方をしたものを提示すると、市民はそれで「幸せ」とか「豊かさ」を感じることができるのかと。そんなやり取りをしながら繰返し市民の想いを検討する中で、「育てる広場」という概念が出てきて、そこからだんだん市川さんの言う変な茨木市になってきた気がします（笑）。まちの人たちが「良いまち」と思うものは何なのかを繰返し市民と議論しているうちにマインドが変わってきたと思っています。

■まちづくりに対する疑問

キッチンカー出展者

たたらばコーヒー 藤井：茨木市でキッチンカーの出展やイベント企画をしています。まちづくりをしている感覚はゼロで、今後もするつもりは無いという感じでやっています。逆に質問したいなと思ったのですが“良いまち”とは何なのでしょう。今、茨木市は良い

まちだと思うし、これ以上良くする必要性があるかどうか、誰にとって良いまちなのか、多分もっとスラム街の方が良いみたいな人もいます。そういう意味でも、多分僕らの活動の原動力になってるのは、目の前にいる人が楽しそうにしていることで、それが一番嬉しいことです。イベントをやって、楽しんでいる人を見るだけで、やって良かったなと思います。

■良いまちとは

村上：私はずっと茨木に住んでいますが、不便と思ったこともないし、住みやすいと思ったこともなくて。可もなく不可もなく、現状維持で満足してる。私自身は茨木って良いまちだなと思いつつも、特徴がないというか、そういったまちなのかなと思っています。

水上：まちづくりは何のためにやっているんだろうと思うことがあります。そうしたら結局、自分が自分のため、もしくは目の前の人のためにやっている、私はそこに行きつくような気がしています。他人のためにまちづくりをするとボランティアになって、しんどくなってやめるみたいな話が多い。やっぱり軸というのは自分主語で持っておいた方がまちづくりの本質に近い部分なのではないかと思っています。ただ、子供達に同じ状況で渡せるのかという視点になった時には、財政状況や環境問題を考えると、このままだと渡せないという気持ちもあります。何かしら課題意識を持ったアクションが自分の子供のためにはいるのかなと思ってます。



トークセッションの様子

talk baton 23 を終えて

今回は様々な立場の方々より、まちづくりに関するご意見をいただくことで、その本質に触れることができました。まちづくりを自分事“DIY”に置き換えることで、まちでの存在を実感し、更に日常を楽しくさせるのではないのでしょうか。

対談 日：2023.03.25

場 所：茨木市役所前線（大阪府）

モデレーター：平岡翔太（梓設計）